

# 郷土芸能を学習する場としての小学校の考察

—時事通信社「教育奨励賞」受賞校の実践から—

坂本 麻実子<sup>1</sup>

## Elementary Schools for Learning Local Performing Arts

—Some Practices of Elementary Schools Received the Incentive Award of Education by Jiji Press—

Mamiko SAKAMOTO

E-mail : msakamot@edu.u-toyama.ac.jp

キーワード：郷土芸能，小学校，郷土教育，時事通信社，教育奨励賞

Keywords : Local Performing Art, Elementary School, Local Education, Jiji Press, Incentive Award of Education

### 1. 2020 年春の状況から

日本の春は各地で祭りやイベントが行われ、郷土芸能が演じられることが多い。しかし 2020 年の春は新型コロナウイルス感染防止のため祭りやイベントが中止になり、郷土芸能の演者や関係者には残念であった。筆者は音楽教育の観点から全国高等学校総合文化祭（高文祭）における郷土芸能部門の競演（コンクール形式）や全国中学校総合文化祭（中文祭）の郷土芸能発表に着目し、郷土芸能に取り組む高校生や中学生の晴れ舞台であることを考察したが（坂本 2018, 2020）、2020 年の開催は高文祭の方はオンライン形式でコンクール審査を行わず、中文祭の方は中止となった<sup>1</sup>。毎年、当たり前のように行われてきた祭りやイベントが中止になると、その欠落感は小さくないことに気づかされる。しかし、多くの郷土芸能は何度も中断・廃絶の危機に見舞われながら存続してきた。祭りやイベントの中止が相次ぐ時期だからこそ郷土芸能の継承活動に目を向けることは意味があると考ええる。

ところで少子高齢化、過疎化が加速する地方では郷土芸能を教え教わる場になっているのが学校である。「総合的な学習の時間」や部活動で郷土芸能の保存会から指導を受け、学内外で演技を披露している児童・生徒は珍しくない。そこで筆者が注目するの

は時事通信社が全国の学校を対象に行っている「教育奨励賞」という顕彰事業である。「教育奨励賞」受賞校の中には郷土芸能の活動を評価された学校があり、各校の様子は『内外教育』（時事通信社）という雑誌に掲載されている。特に小学校では中文祭や高文祭のような郷土芸能の全国規模の大会がないので「教育奨励賞」の受賞は荣誉である。「教育奨励賞」受賞校の実践は音楽教育では十分に認識されているとは言えないが、現代の学校と郷土芸能の関係を考える上で興味深い事例となろう。前述のとおり筆者は高等学校と中学校での郷土芸能の活動については別に論じたので、今回は小学校を取り上げたい。「総合的な学習の時間」が新設された 2002 年から 2019 年までに「教育奨励賞」を受賞した小学校を対象に、郷土芸能を学習する場としての小学校が果たしている役割を明らかにする。

### 2. 時事通信社「教育奨励賞」と郷土芸能による受賞校

まず郷土芸能による「教育奨励賞」受賞校を概観する。時事通信社は 1985 年（昭和 60 年）に創立 40 周年記念事業として創造性に富んだ特色ある教育実践を通じ学校教育の一層の充実を図ることを目的として「教育奨励賞」を創設した。翌年の第 2 回以来、「教育奨励賞」は A. 授業の革新, B. 地域社会に根差した教育の二部門で選考が行われ、現在まで 34 回

<sup>1</sup> 富山大学人間発達科学部

を数える。郷土芸能の学習活動はB部門で審査され、その受賞校は表1に示す。

表1. 郷土芸能の学習による時事通信社「教育奨励賞」受賞校一覧（2002～2019）

年度	受賞	校種	学校名 ( )内は府県	児童・ 生徒数	郷土芸能	『内外教育』掲載 号、掲載頁、発行日
2002	努力	小	始良町立北山 (鹿児島) →2010 始良市立北山小	44	若宮太鼓隊	5337号 pp.8-9 2002/10/25
2003	努力	中	福岡市立博多 (福岡)	221	博多祇園山笠(国)	5423号 pp.8-9 2003/10/07
2004	努力	小	宇治田原町立奥山田 (京都) →2007 宇治田原小	12	ねりこみ囃し	5512号 pp.12-13 2004/10/08
2005	努力	小	奈良市立月ヶ瀬 (奈良) →2017 月ヶ瀬小中	92	尾山万歳(旧月ヶ瀬村指定 無形文化財)、狂言	5601号 pp.10-11 2005/10/14
2005	努力	中	南砺市立平 (富山) →2009 上平中と統合し 新・平中となる	29	越中五箇山民謡	5605号 pp.8-9 2005/11/01
2005	努力	小	印西市立永治 (千葉) →2017 木刈小	71	浦部十二座神楽(県)	5609号 pp.6-7 2005/11/15
2007	努力	小	鶴岡市立櫛引東 (山形)	131	黒川能(国)	5774号 pp.6-7 2007/10/23
2007	努力	小	斑鳩町立斑鳩 (奈良)	763	能楽(金剛流シテ方)	5776号 pp.10-11 2007/10/30
2007	努力	中	福井市立鷹巣 (福井)	76	ヨサコイ夜網節	5777号 pp.12-13 2007/11/06
2007	努力	小	錦江町立神川 (鹿児島)	63	銭太鼓	5779号 pp.8-11 2007/11/13
2007	努力	小	仙台市立福岡 (宮城)	70	鹿踊・剣舞(県)	5781号 pp.10-11 2007/11/20
2007	努力	中	安芸高田市立美土里 (広島)	71	神楽(県)	5785号 pp.6-7 2007/12/07
2007	努力	高	神奈川県立愛川 (神奈川)	579	三増の獅子舞(県)	5786号 pp.10-11 2007/12/11
2009	努力	高	和歌山県立紀北農芸 (和歌山)	284	和太鼓	5957号 pp.12-13 2009/12/11
2012	努力	小	金沢市立味噌蔵町 (石川) →2016 兼六小	232	加賀宝生(市)	6202号 pp.12-13 2012/10/23
2013	努力	中	小豆島町立池田 (香川) →2014 小豆島中	107	農村歌舞伎(県)	6283号 pp.12-13 2013/10/11

2013	努力	中	豊後高田市立真玉 (大分)	69	真玉歌舞伎	6291 号 pp.12-13 2013/11/15
2014	努力	小	垂井町立表佐 (岐阜)	221	表佐太鼓踊り (県)	6367 号 pp.12-13 2014/10/17
2014	努力	中	秩父市立荒川 (埼玉)	161	白久串人形芝居 (県)	6367 号 pp.14-15 2014/10/17
2014	努力	小	大河原町立大河原 (宮城)	885	宮城県民謡「さんさ時雨」	6367 号 pp.14-15 2014/11/14
2015	優良	中	世羅町立世羅西 (広島)	65	組曲「明神の舞」	6448 号 pp.14-15 2015/10/02
2017	努力	小中	三島村立三島 (鹿児島)	小 22 中 4	ジャンベ活動	6624 号 pp.16-17 2017/11/14
2018	努力	小	福岡市立今津 (福岡)	127	今津人形芝居 (県)	6702 号 pp.14-15 2018/10/19
2019	努力	小	小千谷市立片貝 (新潟)	190	巫女爺人形操り (県)	6788 号 pp.12-13 2019/11/08

備考：学校名、児童・生徒数は受賞当時のもの。受賞後に市町村合併や再編・統合により変更があった場合は現在の学校名も併記する。郷土芸能欄の(国)は国指定の重要無形文化財、(県)、(市)は県、市指定の無形文化財を示す。

『内外教育』第 6615 号(2017 年 9 月 29 日発行)の記事(タイトル名「教育奨励賞」)によれば「教育奨励賞」は公募方式によらず、時事通信社の記者による取材レポートに基づいて選考を進める。毎年、全国の時事通信社の支社、総支局は都道府県、政令指定都市ごとに教育委員会の助言を受けながら公私立の幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校の中から候補校を選出し(特別支援学校の選出は 5 年ごと)、記者が直接取材してレポートを作成する。6 月から 7 月にかけて本社に候補校の取材レポートが到着すると、本社では専門委員の協力を得て①今日的課題を追求しているか、②研究・実践は数年以上の積み重ねがあり、定着しているか、③研究・実践の水準は、全国的に見てトップクラスにあるか、の 3 点から審査し、候補校を半数ほどに絞り込む。残った候補校は 9 月の最終審査に進み、複数の審査委員が最優秀賞、優秀賞、優良賞、特別賞(メディア教育に優れた業績のある学校に授与される)を決定し、それ以外の学校を努力賞とする。ちなみに 2017 年の第 32 回の選考では、候補の 59 件 64 校からまず 31 件 33 校を選出した。最終審査では A 部門

から 5 校、B 部門から 2 校が受賞ラインに浮上し、協議の結果、優秀賞に 2 校(A・B 部門から 1 校ずつ。そのうち A 部門の 1 校は最優秀校として文部科学大臣奨励賞を合わせて受賞)、優良賞に 4 校(A 部門から 3 校、B 部門から 1 校)、特別賞に A 部門から 1 校が選ばれた。以上の 7 校をのぞく 26 校は努力賞となった。この努力賞のうちの 1 校が表 1 にも示した三島村立三島小・三島中である。「地域に根差した教育」の受賞対象は郷土芸能に限らないが、それでも表 1 に示すように 2002 年から 2019 年までの 20 年間に小学校 13 校、小・中学校 1 校、中学校 8 校、高等学校 2 校、合計 24 校が郷土芸能の学習を認められて受賞し(第 30 回の世羅西中は優良賞、残り 23 校は努力賞)、小学校の受賞が目立つ。小学児童は国の重要無形文化財や県、市、村の無形文化財に指定されている郷土芸能にも取り組んでいる。

### 3. 小学校受賞校の郷土芸能の学習

「教育奨励賞」受賞校の郷土芸能の学習について『内外教育』の掲載記事(掲載号は表 1 参照)に基

づき表 2 のようにまとめてみた。

2002 年受賞の始良町立北山小<sup>あいら</sup>(鹿児島県)は 1968 年に 3 校を統合して開校した。2000 年度からは特認校(小規模校特別認可制度)を採用し、校区外か

らも児童を受け入れて小学校の存続を図っている。1998 年に結成された「若宮太鼓隊」は地元の青年団が伝承していた「始良太鼓」を引き継いだ。全児童が参加する「若宮太鼓隊」は旧 3 校区と北山小を結

表 2. 「教育奨励賞」を受賞した小学校(小中学校を含む)の郷土芸能の学習内容

受賞年度	小学校名 [] 内は現在の校名	郷土芸能	学習する学年	学習内容
2002	北山小	若宮太鼓隊	1～6 年全児童	① 1998～. 月 2 回 19:30～21:00 ② 学習発表会
2004	奥山田小 [宇治田原小]	ねりこみ囃し	1～3 年太鼓、鉦 4～6 年横笛	① 1981～. 朝の「ゆとりの時間」、夏休み。 ② 8/15 夜。奥山田会館前から奥山田天神社まで練り歩く。
2005	月ヶ瀬小 [月ヶ瀬小中]	尾山万歳 狂言	5 年尾山万歳 6 年狂言	① 10 数年前から学ぶ ② 秋の学習発表会
2005	永治小 [木刈小]	浦部十二座神 楽(県)	5、6 年	① 1996～. 総合。 ② 永治プラザ祭り、文化祭。2005 鳥見神社秋季大祭。
2007	櫛引東小	黒川能(国)	1～5 年謡 6 年謡、舞 4～6 年はふる さと芸能クラブ	① 1985～. 朝の集会。全児童が 6 年間稽古する。 ② 秋の学芸会。クラブ員は 7 月「水焰の能」(黒川能野外公演)に参加する。
2007	斑鳩小	金剛流能楽	3 年 4～6 年は金剛 能楽クラブ(能ク ラブ)	① 2003～. 総合。2004 クラブ創設。 ② らんらんフェスタ(日曜参観)。クラブ員は地域行事への参加あり。
2007	神川小	銭太鼓	5 年	① 30 年近く続く。総合。 ② 文化祭、学習発表会
2007	福岡小	鹿踊・剣舞(県)	4～6 年	① 1975～. 総合。11 月から 6 年の師匠が 4、5 年の弟子 2,3 人を指導。翌 3 月に師弟の引き継ぎがあり 4 月から新 5、6 年が保存会の指導を受ける。 ② 秋に地元の神社に奉納。学校や地域の行事。
2011	味噌蔵町小 [兼六小]	加賀宝生流能 楽	6 年	① 2006～. 総合。5 年後半から継続。 ② 県立能楽堂での発表会
2014	表佐小	表佐太鼓踊り (県)	5、6 年太鼓委員 会	① 1998～. 月 2 回。5 年で選抜された約 15 名が 6 年も継続。 ② 秋の「表佐太鼓踊り」
2014	大河原小	さんさ時雨	4 年	① 2008～. 音楽科の授業で民謡協会員の指導で実施。 ② 町民文化祭
2017	三島小・中	ジャンベ活動	小学校低学年は 舞踊。 高学年と中学生 はジャンベ演奏	① 1994～. 放課後に「みしまジャンベスクール」で小中合同練習。 ② 港でのフェリーの出迎え、見送り。運動会、卒業式。中学生は県音楽コンクールに出場。

2018	今津小	今津人形芝居	3 年	① 2004～。総合、夏休み。 ② 保存会の恵比寿座の本公演に出演。
2019	片貝小	巫女爺人形操り	4 年 4～6 年片貝巫女爺子供教室(みこじいクラブ)	① 2008～。総合。クラブ員は4月～11月練習と発表で20回の活動。 ② クラブ員は「片貝まつり」前夜祭に参加。

備考：表1に示す『内外教育』掲載記事に基づき作成。学習内容欄の①は学習開始年や学習時間など。「総合」は「総合的な学習の時間」の略。②は学習発表の場所。

びつける役割を果たしている。遠距離通学の児童が多く、月2回の夜の稽古には保護者の協力が欠かせない。

2004年受賞の宇治田原町立奥山田小(京都府)の「ねりこみ囃し」は奥山田地区の盆行事である。戦時中に途絶えたのを復活したが、1981年から奥山田小児童が引き継ぎ、朝の「ゆとりの時間」や夏休みを使って学ぶ。本番では低学年は太鼓と鉦を叩き高学年は横笛を吹きながら町内を練り歩く。4年生には地区から横笛が贈呈される。

2005年受賞の奈良市立月ヶ瀬小(奈良県)では全学年に郷土文化の体験学習があり、そのうち5年生は尾山万歳(旧月ヶ瀬村指定の無形文化財)、6年生は桃香野地区に伝わる「子ども狂言」にちなみ狂言を学ぶ。本来、尾山万歳は太夫1人、才蔵2人で演じるが、5年生全員で行うため2004年度は太夫役3人、才蔵役8人で演じた。6年生の狂言は国語科教材にも採用されている「附子」を含む2演目を演じる。

2005年度受賞の印西市立永治小(千葉県)にも全学年に郷土文化の体験学習があり、そのうち5、6年生は「総合的な学習」の時間に「浦部十二座神楽」(県指定の無形文化財)を学ぶ。「浦部十二座神楽」は地元の長男だけが伝承してきたが廃絶する恐れが出てきたため、2001年度から永治小で舞の稽古が始まり、12演目のうち毎年1演目ずつ学ぶ。永治小の活動は地元にも受け入れられ、2005年の鳥見神社秋季大祭には児童が神楽殿で舞った。

2007年度受賞の鶴岡市立櫛引東小(山形県)では1985年度から「黒川能」(国の重要無形文化財)を全児童が6年間を通じて学び、黒川能担当教員も配置している。黒川能は黒川地区の春日神社に奉納される神事能であり氏子の男性のみが演じる。櫛引東小では地区の了解を得て神事能の枠をはずし、演目も15分程度に短縮し、黒川以外の地区から通う児童も学べるように計らった。朝の集会の時間に1学

期は全学年が謡、2学期から6年生は舞を稽古する。4～6年生は「ふるさと芸能クラブ」でも活動しており、クラブ員は毎年7月の「水焰の能」(黒川能野外公演)に出演する。

2007年受賞の斑鳩町立斑鳩小(奈良県)では地元が金剛流能楽の発祥の地であることから「金剛流シテ方」の能を学んでいる。京都からプロの能楽師を迎え、2003年度から3年生は「総合的な学習の時間」に謡を学ぶ。2004年度には「能楽金剛クラブ」(能クラブ)も発足し、4～6年生のクラブ員は謡と舞の稽古をつけてもらう。

2007年受賞の仙台市立福岡小(宮城県)では「総合的な学習の時間」に鹿踊と剣舞(県指定の無形文化財)を2グループに分かれて学ぶ。鹿踊も剣舞も地元の長男を中心に継承してきたが、福岡小では演目を子ども向けに再構成し、上級生から下級生へと引き継いでいる。毎年、11月に6年生の「師匠」がそれぞれ4、5年生2、3人の「弟子」を受け持ち唄と踊りを教える。翌年3月に師匠から弟子への引き継ぎ式があり、4月から新5、6年生が保存会の指導を受けて演技の完成を目指し、8月から11月にかけて学内外の行事で披露する。校区の中学校でも鹿踊・剣舞を選択教科に取り入れており<sup>(2)</sup>、児童は卒業後も継続して学ぶことができる。

2012年受賞の金沢市立味噌蔵町小(石川県)では校下に友禅、能楽、金箔、和菓子などの従事者が多く住むところから全学年に金沢文化の体験学習があり、そのうち6年生は「総合的な学習の時間」に「加賀宝生」(市指定の無形文化財)を学ぶ。校区在住のプロの能楽師の指導で5年生の後半から謡の稽古が始まり、6年生は県立能楽堂で謡を披露する。

2014年受賞の垂井町立表佐小(岐阜県)の「表佐太鼓踊り」(県指定の無形文化財)では、児童は重さ10キロ以上もある大太鼓を腹にくくりつけ、打ちながら踊る。同校では「青年団が衰退したため、地域から学校での活動に切り替わってきたのかもしれない

い」という<sup>(3)</sup>。表佐小では練習時間を確保するためにクラブ活動ではなく委員会活動として太鼓踊りを学ぶことを選んだ。その「太鼓委員会」では5年生から15名ほどを選抜し6年生に上がってからも継続させる。太鼓委員会委員は秋の「表佐太鼓踊り」に大人の太鼓集団とともに参加する。

2014年受賞の大河原町立大河原小(宮城県)には独自の伝統文化教育があり、各教科の単元で日本文化と関係があるものを体験学習させている。そのうち4年生は音楽科の「日本の音楽に親しもう」という単元で宮城県の民謡「さんさ時雨」を地元の民謡協会員を「ゲストティーチャー」に招いて学び、町民文化祭で歌う。ゲストティーチャーは町の教育委員会から町の予算で損害保険に加入した上で派遣される。

2017年受賞の三島村立三島小・三島中(鹿児島県)は硫黄島唯一の小中学校である。三島村はギニア共和国と交流があり、1994年に来日したギニア国立舞踊団のママディ・ケイタ氏から校長が西アフリカの伝統打楽器「ジャンベ」を教わり、以来、「みしまジャンベスクール」を拠点に校長が指導している。小学校低学年はジャンベ演奏に合わせて踊り、高学年と中学生はジャンベを演奏する。ジャンベ活動には演奏技術の向上だけでなく、子どもたちの「島立ち」(中学卒業後に進学のため島を離れる)を念頭に「生き抜く力」を養うという目的もある。

2018年受賞の福岡市立今津小(福岡県)では2004年度から3年生が「総合的な学習の時間」に「今津人形芝居」(県指定の無形文化財)を保存会「恵比寿座」の指導で学ぶ。3人1組での人形操作も浄瑠璃も3年生には簡単ではないが、毎年、恵比寿座の本公演では1演目が今津小に任されている。

2019年受賞の小千谷市立片貝小(新潟県)では「巫女こじい爺人形操り」が2008年に県の無形文化財に指定されたのを機に「片貝巫女爺子供教室」(通称みこじいクラブ)が発足した。4～6年生のクラブ員が「しゃぎり」と呼ばれるお囃子や唄に合わせて巫女とお爺さんの人形を操る。受賞に際しては「みこじいクラブ」1期生が保存会に加入し、片貝小で指導するまでになった点も評価された。時事通信社新潟支局長から賞状と盾を贈られ、児童たちは「来年はもっとうまくなりたい」と話していたという<sup>(4)</sup>。

#### 4. 求められるマネジメント力

2002年から2019年までの「教育奨励賞」受賞小学校を見ると、郷土芸能の学習は主として「総合的な学習の時間」を充て、まずは学校行事(文化祭、学習発表会等)での発表を目標にする学校が多い。4年生以上には郷土芸能のクラブや委員会もあり、クラブ員や委員は地区の祭りやイベントにも参加する。さらに受賞校ではホームページを作成して郷土芸能活動を積極的に発信している。受賞校の中には郷土芸能の学習を「特色ある教育活動」としてアップしている小学校があり、北山<sup>(5)</sup>、月ヶ瀬<sup>(6)</sup>、永治<sup>(7)</sup>、神川<sup>(8)</sup>、福岡<sup>(9)</sup>、三島小中<sup>(10)</sup>、今津<sup>(11)</sup>の各校で確認できた。学校日誌や学校だよりの記事として郷土芸能の学習をアップする小学校もあり、宇治田原<sup>(12)</sup>(旧奥山田)、兼六<sup>(13)</sup>(旧味噌蔵町)、表佐<sup>(14)</sup>、大河原<sup>(15)</sup>、片貝<sup>(16)</sup>の各校で確認できた。小学校では郷土芸能の学習を教育活動と位置づけている。小学校としては演技の習得はもちろん大事だが、それに伴って児童が忍耐や責任感、礼儀作法を身につけることも重視しており、郷土芸能の学習による児童の心身の錬成に期待するところが大きいと考えられる<sup>(17)</sup>。

とはいえ郷土芸能の学習は小学校だけでは成り立たず、地域の協力が不可欠である。指導者の派遣、衣装や道具の調達と管理、着付けや化粧の支援、児童の送迎の手配など、教育委員会、保存会、保護者を含めた地域の人々と綿密に連絡をとり、調整を行った上で郷土芸能の学習計画を立て実施に移さねばならない<sup>(18)</sup>。実際、地域内には郷土芸能を小学校で教えることに批判がないわけではない。小学校側でも郷土芸能の学習は後継者の養成を目的とはしないので、演目を子ども向けに再構成すること、子ども同士で教え合うこと、伝承地区以外の地区から通う児童にも教えることにも地域の理解を得なければならない<sup>(19)</sup>。郷土芸能の学習は地域と連携して実施されるだけに小学校のマネジメント力が問われるのである。人口減少により小学校は市町村合併や周辺の小学校との統廃合の影響を受けており「教育奨励賞」受賞校も例外ではない。校区の変更に伴って、郷土芸能を伝承地区外の児童が伝承地区の児童とともに学ぶ小学校は増えていくが、そこから郷土芸能に新たな創造が生まれる可能性を考えてもよいのではないか。小学校のマネジメント力は今後ますます

重要になるだろう。

## 注

- (1) 最近では表 1 に挙げた高等学校では和歌山県立紀北農芸が 2019 年の高文祭に出場し、同じく中学校では南砺市立平が 2019 年の中文祭に出場した。
- (2) 仙台市立根白石中学校ホームページ：特色ある教育活動「しの笛・鹿踊剣舞」。  
Sendai-c.ed.jp/~neshiro-jh/ (2020/05/01 閲覧)  
根白石中では音楽科の授業で鹿踊を伴奏するしの笛を学び、「総合的な学習の時間」でしの笛、鹿踊、剣舞に取り組んでいる。
- (3) 青年団は若者組の伝統を受け継ぐ地域の青年組織であり、地元の祭礼では中心的な役割を果たしていた。若者組では太鼓が好まれ、各地で若者同士の叩き比べが行われていたという（平山 1988：上巻 127）。本稿でも表佐小の「表佐太鼓踊り」だけでなく北山小の「若宮太鼓隊」も青年団の太鼓を引き継いでいた。
- (4) 小千谷市立片貝小学校ホームページ：日々の活動より～巫女爺クラブに大きなプレゼントが届きました（2019 年 11 月 13 日）。  
<https://city.ojiya.niigata.jp/katakai> (2020/05/01 閲覧)
- (5) 始良市立北山小学校ホームページ：若宮太鼓保存会  
<http://www12.shnapse.ne.jp/kitayama/wakamiya-taiko.html>(2020/05/01 閲覧)
- (6) 奈良市立月ヶ瀬小中学校ホームページ：尾山万歳  
<http://www.naracity.ed.jp/tsukigase-e/endes.cfm/1,9,17,173,html>  
同上：狂言  
<http://www.naracity.ed.jp/tsukigase-e/endex.cfm/1,10,17,143,html>  
(尾山万歳，狂言とも 2020/05/01 閲覧)
- (7) 印西市立永治小学校ホームページ：総合的な学習：神楽  
[http://inzai.ed.jp/eiji/e/?page\\_id=34](http://inzai.ed.jp/eiji/e/?page_id=34)  
(2020/05/01 閲覧)
- (8) 錦江町立神川小学校ホームページ：神川小学校の銭太鼓伝承活動の取組（2019 年版）  
[www.pref.kagoshima.jp/ba08/kyoiku-bunka/bunkazai/soudan/denshou/documents/45220](http://www.pref.kagoshima.jp/ba08/kyoiku-bunka/bunkazai/soudan/denshou/documents/45220)

- 2020317162317-1.pdf (2020/05/01 閲覧)
- (9) 仙台市立福岡小学校ホームページ：伝承活動 鹿踊剣舞  
[sendai-c.de.jp/~fukuoka/sisiken-top.html](http://sendai-c.de.jp/~fukuoka/sisiken-top.html)  
(2020/05/01 閲覧)
- (10) 三島村立三島小中学校ホームページ：ジャンベ活動  
[www.mishimamura-sch.jp/mishimakko](http://www.mishimamura-sch.jp/mishimakko)  
(2020/05/01 閲覧)
- (11) 福岡市立今津小学校ホームページ：今津人形芝居  
[www.fukuoka-e-ed.jp/school/elimazu/pdf/3\\_1.pdf](http://www.fukuoka-e-ed.jp/school/elimazu/pdf/3_1.pdf)  
(2020/05/01 閲覧)
- (12) 宇治田原町立宇治田原小学校ホームページ：「うじたわら」（2019 年 7 月 19 日発行）～「ねりこみ囃し」の練習が始まる！  
<http://www.kyoto-be.ne.jp/ujitawara-es/cms/>  
(2020/05/01 閲覧)  
宇治田原小学校（旧奥山田小学校）では奥山田地区以外の子どもも大人も「ねりこみ囃し」の練習と本番に参加できるとしている。
- (13) 石川市立兼六小学校（旧味噌倉町小学校）ホームページ：日々つれづれ～鶴亀練習（2019 年 6 月 4 日）  
[Cms.kanazawa-city.ed.jp/kenroku-e/view.php?pageId=1032](http://Cms.kanazawa-city.ed.jp/kenroku-e/view.php?pageId=1032) (2020/05/01 閲覧)  
旧味噌蔵町小学校の「加賀宝生」の体験学習を引き継ぎ「鶴亀」を練習している。
- (14) 垂井町立表佐小学校ホームページ：子どもたちの活動の様子～児童集会 太鼓委員会・美化委員会の発表（2020 年 2 月 12 日）  
[www.tarui-school.ed.jp/osa-es/doca/2020021300017](http://www.tarui-school.ed.jp/osa-es/doca/2020021300017) (2020/05/15 閲覧)
- (15) 大河原町立大河原小学校ホームページ：大小ニュース～さんさ時雨を学んだよ（2019 年 9 月 6 日）  
<http://www.ogawara.k.miyagi.jp/daisho/>  
(2020/05/15 閲覧)
- (16) 注(4)参照。
- (17) 注(9)によれば福岡小「伝承活動 鹿踊剣舞」は後継者育成を目指すものではなく、「鹿踊・剣舞」を通して①ふるさとを愛する心，②自分に自信を持つ，③学ぶ楽しさと教える難しさ，④社会性の育成，⑤体力づくり，の 5 項目を児童に学んでほ

しいとする。

(18) 注(7)によれば永治小「総合的な学習：神楽」では浦部十二座神楽社中と学校職員で「神楽推進委員会」を開き，そこで学習計画を立て，地域の人々に協力を依頼している。

(19) 注(8)によれば「神川小学校の銭太鼓伝承活動の取組」では「学校，地域，そして文化協会員との連携がしっかりとれるように連絡等をとるようにしている。児童同士の伝承（児童同士で教え合う新しい形）の流れもできている。文化協会員の方には，近すぎず，遠すぎず，見守り的な形で協力をお願いするようにしている」という。

### 参考文献

坂本麻実子 (2018)「郷土芸能のハイスクール・デイズー全国高等学校総合文化祭の頂点を目指す郷土芸能部員たちー」『富山大学人間発達科学部紀要』12-2, pp.15-25

坂本麻実子 (2020)「中学生と郷土芸能の夏ー全国中学校総合文化祭の舞台からー」『富山大学人間発達科学部紀要』14-2, pp.15-22

平山和彦 (1988)『合本青年集団史研究序説』東京：新泉社

(2020年5月20日受付)

(2020年7月15日受理)